

10:1 イエスは立ち上がり、そこからユダヤ地方とヨルダンの川向こうに行かれた。群衆がまたイエスのもとに集まって来たので、再びいつものように彼らを教え始められた。
10:2 すると、パリサイ人たちがやって来て、イエスを試みるために、夫が妻を離縁するとは律法になっっているかどうかと質問した。
10:3 イエスは答えた。「モーセはあなたがたに何と命じていますか。」
10:4 彼らは言った。「モーセは、離縁状を書いて妻を離縁することを許しました。」
10:5 イエスは言われた。「モーセは、あなたがたの心が頑ななので、この戒めをあなたがたに書いたのです。
10:6 しかし、創造のはじめから、神は彼らを男と女に造られました。
10:7 『それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、
10:8 ふたりは一体となる』のです。ですから、彼らはもはやふたりではなく、一体なのです。
10:9 こういうわけで、神が結び合わせたものを、人が引き離してはなりません。」
10:10 家に入ると、弟子たちは再びこの問題についてイエスに尋ねた。
10:11 イエスは彼らに言われた。「だれでも、自分の妻を離縁し、別の女を妻にする者は、妻に対して姦淫を犯すのです。
10:12 妻も、夫を離縁して別の男に嫁ぐなら、姦淫を犯すのです。」
10:13 さて、イエスに触れていただこうと、人々が子どもたちを連れて来た。ところが弟子たちは彼らを叱った。
10:14 イエスはそれを見て、憤って弟子たち

に言われた。「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。邪魔してはいけません。神の国はこのような者たちのものなのです。」

10:15 まことに、あなたがたに言います。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」

10:16 そしてイエスは子どもたちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福された。

パリサイ人は律法さえ守れば良いという態度です。そのような人は外面的なことに気を遣うことになりません。そのような人は結婚の意味を考えずに、ただ決まり守れば良いと考えるのです。イエス様は結婚の大切な意味から教えます。それは、神様と人の愛の関係を表す、重要なものから、人は神が結び合わせたものを引き離してはならないのです。律法主義のように外面だけをつくるような生き方ではなく、神様のみのこころの本質を生きましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

